

第53回インナーゼミナール大会 研究計画書

| | | | |
|--------|--|------|-----------|
| ゼミ名 | 宮川ゼミ | チーム名 | チームトゥクトゥク |
| タイトル | Show your personality!! ～あなたの意見が聞きたいんだ～ | | |
| テーマ群 | a)理論・情報 e)産業・企業 | | |
| メンバー | 安藤真由、奥野斗麻、浜添安菜、松居ももか、山内悠輝、山本侑弥 | | |
| 研究計画内容 | <p>[研究背景]</p> <p>私たち大学生は、授業や就職活動の場でグループワークを行う機会が増加している。これまで経験したグループワークでは、あまり発言をしない人とのやり取りに難しさを感じるが多かった。就職活動でのグループディスカッションでは、チームワークやコミュニケーション能力が問われるらしい。しかし、中には意見が言えずに周りの人の意見に合わせる人もいるのではないかと考えた。私達はこのようなグループでの活動における同調圧力の存在と発言ができなくなる要因を明らかにし、グループの中でも自分の意見を発言し、全体を考えつつ個性を発揮する方法を明らかにする研究に取り組むことにした。そして、自分自身の意見や個性を発揮することができる社会を目指すために本研究に至った。</p> <p>[研究内容]</p> <p>私たちは、周囲の人に同調してしまう要因が「自分自身」と「周りの環境」にあると仮定し、そこからさらに、「経験・自信」「やる気」「自己利益」「視線・雰囲気」「プロフィール」「他己利益」の6つの要素に分類した。「経験・自信」「やる気」「自己利益」の3つは「自分自身」の要素として、「視線・雰囲気」「プロフィール」「他己利益」の3つは周りの環境の要素として区別した。どの要素が同調することに関係しているのか、強く影響しているのかを調べる。それぞれの要素に関連する質問を作成し、それぞれ5段階評価でアンケートを取る。グループワークに関する質問項目だけでなく、周囲の人に流される場面を複数想定し、ランダム比較試験を用いる。そして各要素を説明変数とし、グループディスカッションに対する満足度などの被説明変数とで回帰分析を行い、回答者の行動変容を分析する。また、評価する側は、同調する人とししない人、個性を発揮する人とししない人をどう評価するのかについてもアンケートを取る。これらの分析で得られたことを私たちの研究報告として発表する。</p> <p>[期待される効果]</p> <p>アンケート等で得られた、同調してしまう要因を明らかにしその打開策を提案することができれば、意見が飛び交う、より有意義なグループワークの展開が可能になる。そして、就職活動や交友関係においても一人一人が個性を発揮出来るようになり、チームワークやコミュニケーション能力の上昇にも貢献できる。また、評価される側を知っておくと評価する側とされる側のギャップも埋められ、就職活動に役立つと考える。</p> <p>[参考文献]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ソロモン・アッシュ (1956) 「独立性と適合性の研究」 2. ダン・アリエリー (2012) 「ずる一嘘とごまかしの行動経済学」、早川書房 | | |